

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600778	事業の開始年月日	平成27年9月1日
		指定年月日	平成27年9月1日
法人名	医療法人社団 幸山会		
事業所名	グループホームプレシヤス橋本		
所在地	(〒252-0144) 神奈川県相模原市緑区東橋本3-15-18		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果 市町村受理日	

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様の協力の下で、利用者様1人1人の人生・経験・価値観に寄り添い、思いや要望を踏まえて個々のやりたい事を支援して、出来ない場合には丁寧に説明を行い、利用者様がストレスのない日常生活が送れて、生き生きとした表情や姿が見られるように支援している。

事業所の医療機関の定期的な往診・訪問看護があり、利用者様の体調の変化や些細な変化を見逃がさないように、早期発見に取り組み、変化等に気づいたことがあれば、ただちに看護師に報告して、適切な医療につなげている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成30年2月21日	評価機関 評価決定日	平成30年4月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR横浜線・京王相模原線「橋本駅」北口から徒歩で15分程の閑静な住宅地にあります。建物は、2階建ての2ユニット18名のグループホームです。事業所の運営は、八王子市の医療法人社団が担っています。また隣接して事業所と同じ法人が運営する介護付き有料老人ホームがあります。

<優れている点>

利用者一人ひとりの人生・経験・価値観に寄り添い、思いや要望を踏まえて「利用者が居心地よく安心して暮らせる場所であるように」職員一丸となって取り組んでいます。利用者が経験してきた習慣や行事を引き続き体験できるように活動の企画をしています。初詣や花見、紅葉見学、足湯、ひな祭りなど、四季折々にちなんだ行事や外出の機会を設けて楽しんでもらっています。行事や日々のおやつに、ホットケーキやコーヒーゼリー、お汁粉などを利用者の参加のもとに作り、作る楽しみ・食べる楽しみを味わってもらっています。

<工夫点>

職員で構成する、5つの事業実施のための「担当係」を設けています。おやつ係及び飾り付け係、外出レク係、レク係、備品係があります。各係は1階と2階ユニットから各1名計2名の職員で構成しています。利用者との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを企画に反映しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームプレシャス橋本
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3. 利用者の1/3くらいの
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
	○	2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に対する理解を深め、「愛と奉仕」の精神に基づき、入居者様及びご家族が安心して生活できる環境を職員一同周知して、実践に繋げる取り組みをしている。	法人の<基本方針>で「信頼と心の通った医療・看護・介護サービスを提供します」を掲げています。職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、思いを汲み取り「居心地よく安心して暮らせる場所」であるように実践に繋げる取り組みをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な散歩、買い物等に出掛け行き交う方々と挨拶を交わしたり話をしたり自治会活動に進んで参加し、地域の一員として取り組んでいる。	利用者、事業所ともに地域の一員として、つながりを大切に取り組んでいます。毎朝、事業所周辺と道路の清掃を行い、行き交う人々と挨拶を交わしています。保育園児やマジックショーボランティアなどの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の様々な研修、会合に関わりながら随時認知症の相談も受けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回運営推進会議を開催して施設の現状報告を行い、利用者様、ご家族様、地域の方々の意見を伺いサービス向上に活かせるように努めている。	今年度から2ヶ月に1回、開催しています。会議に利用者及び家族、自治会長、地域包括支援センター職員の参加があります。事業所側からは法人の責任者も出席し、活発な話し合いが行われています。意見は、サービス向上に活かすように努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政の認定調査員や生活保護受給者のケースワーカー等と連絡を密に取り、利用者様の暮らしぶりを伝えている。又、市町村担当者より行政主催の研修や講習会などの案内・連絡をいただいている。	介護認定更新などのために来所する行政職員に、利用者の状況を正確に理解してもらえるように説明しています。行政主催の研修会に経験や職務内容などを考慮して該当職員が出席し、サービス向上に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を全スタッフが理解し、身体拘束のないケアを心掛けている。又、定期的に勉強会を開催して身体拘束ゼロ対応に取り組んでいる。玄関の施錠は外部からの不審者を予防するため、防犯上止むを得ず行っている。	身体拘束の対象となる行為及び弊害を全スタッフが理解し、身体拘束のないケアを実践しています。毎年、「身体拘束」及び「接遇・マナー」などの研修並びに勉強会を開き、拘束のないケアに取り組んでいます。また言葉による抑制がないかについても振り返りを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者様の日々の状態を観察して入浴、排泄等の支援を行い、傷や痣の有無を確認して職員間で情報を共有し、虐待が見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。又、研修や勉強会に参加し、学んだ内容は施設内ミーティングで情報の共有化を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	寝たきり、重度認知症の高齢者は、自己の権利を行使できずに権利が侵害されている事もある為、そのような状況において権利行使できるよう側面的に支援代弁していただけるよう職員一同話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約又は解約等の手続きの際は、利用者様やご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の訴えは最後まで傾聴して、親身に受け止め対応している。ご家族様には、手紙や訪問時及び運営推進会議で常にコミュニケーションを取り、何でも話せる雰囲気作りに努めている。	利用者の意向は、日常生活の中で丁寧に聴き取り、ケアに活かしています。家族には毎月の手紙や広報（ふれあい号）などで利用者の様子を知らせています。家族の訪問時に管理者・職員は、コミュニケーションを図るように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員とのコミュニケーションは、常に意見交換や提案を聞くように心がけている。対応の必要がある意見には、職員会議で話し合いの場を設け反映させている。	日常的に意見や提案ができる環境を大切にしています。日々の活動の中で口頭や連絡ノートなどで意見を表すことが出来ます。職員で構成する5つの事業実施の「担当係」を設けています。おやつ係・飾り付け係・外出レク係・レク係・備品係がありそれぞれ実践しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見、要望を取り入れて、働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員に対してケアの技術面や利用者様との関わり方について、指導を実施している。また施設内勉強会、外部研修にも参加する機会を設け、新たな気づきや知識・介護技術の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での合同納涼祭・バーベキュー等を通じ交流を図り、情報交換やサービスの質の向上に繋げている。又、市町村による管理者会議に参加して、勉強会や情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントや情報提供書を基に、入居前の生活環境を把握した上で細やかな観察を行い、不安、要望等に傾聴し、利用者様が安心できる声掛けや対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の不安や困っている事、要望等を伺い、電話連絡を密に取るなど気軽に話せるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様とご家族様の情報を基に、何を必要とされている支援なのか傾聴・確認をした上、職員と話し合う機会を持ち、全員が同じ対応をして行けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有している。その中で利用者様のできる事、できない事を見極め、昔ながらのやり方などを教わりながら利用者様と職員と一緒に食事や掃除等を行い、生活感が持てると共に支えあう関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、ご家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしや出来事の情報を共有し、信頼関係を築きながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚や友人の面会の受け入れ、手紙のやり取りや電話の取り次ぎ等、関係が途切れないよう支援している。又、今まで使用していた家具等を持ち込んで貰い、安心できる環境を整えている。	事業所理念に「皆でつなげる記憶の輪」を掲げています。利用者のこれまでの習慣や体験を大切にしたい暮らしができるよう支援しています。特に利用者が家族を忘れないように家族の来所を歓迎しています。家族との外出なども大事なことと考え支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の相性を見ながら座席をきめたり、穏やかに過ごせる環境作りを心掛けている。又、利用者様が部屋に引きこもらないように、職員が歌や体操・レクリエーション等楽しめる取り組みを工夫して声掛け、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院された場合はお見舞いに伺い、他施設に移られた場合には情報提供をして、これまでのご縁を大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中、しぐさや言動に耳を傾け、思いや考えの把握に努めている。生活のルールの中で実現可能なことは、できる限り利用者様の希望に添えるよう努めている。	職員は、研修やスタッフ会議などで認知症ケアについてスキルアップに取り組んでいます。職員は、利用者一人ひとりの特性について理解を深め、共有しています。利用者に向き合い、常に関心を払い、思いや考えの実現に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前のアセスメントや面談記録などを参考に生活歴や経験等を把握している。馴染みの暮らし方を取り入れ、できる限り希望に添えるよう努めている。又、分からない事がある場合は家族から聞き取りをおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士で申し送りや連絡・往診ノート等を使い情報共有して、利用者様の心身の状態や睡眠状況、嚥下状態や歩行状態等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、職員、医療関係者と話し合い連携を図っている。また状況変化に伴い、アセスメントや往診情報を基に介護計画を作成している。	本人・家族の意向に基づいて、職員及び医療関係者などと話し合い介護計画を作成しています。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っています。状況の変化があれば適宜に介護計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様全員の介護記録表を作成している。介護記録の確認、連絡ノートの活用、朝礼、夕礼の際に職員間で情報を共有しながら、より良いケア・支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様やご家族様の状況・要望に応じ通院介助、買い物代行を行っている。又、往診・訪問看護等にも利用者様の訴えを受け入れて貰える環境である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問理美容やボランティア、利用者様に必要な地域資源を把握・活用して楽しみが持てる暮らしを提供している。又、二ヶ月に一度、運営推進会議を開催し地域包括支援センター職員と話し合いを重ねることで関係を強化している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の提携医療連携機関の往診、訪問看護を定期的実施している。又、ご本人や家族の希望があれば、入所前からのかかりつけ医の治療も受けられるように支援し、必要に応じ他院への紹介もおこなっている。	受診医療機関は利用者・家族の希望を大切にしています。現在は利用者全員が事業所の協力医の往診を受けています。週1回の看護師の訪問があります。また、隣接の同一法人の老人ホームの看護師の協力も得られます。病状の急変には24時間対応が可能となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、体調変化に気づいた段階で看護職員（訪問看護師）等に報告し指示を仰ぎ、外部受診や往診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行っている。入院中は現在の様子などを聞き、家族と共に回復状況の情報交換をし退院に向けた支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり安心して、納得のいく最期を迎えられるように随意時、意思の確認をしながら取り組んでいる。又、職員は、必要な知識を身に着けるように勉強している。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、事業所として出来ることを説明し、本人や家族と話し合い、方針を共有しています。職員は勉強会などで看取り介護について知識技術の習得を図り、利用者が安心して最期を迎えることができる体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時慌てないように、救急講習会には積極的に参加している。行政関係や消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を実施している。施設内の勉強会でも対応・方法を話し合い、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器使用法などの訓練を定期的に行っている。又、運営推進会議において災害時の避難誘導や地域住民との連携について話し合い、協力体制が築いていけるように努めている。	年に2回消防避難訓練などを行い、消防署の指導を受けています。緊急時の職員電話連絡網の伝達訓練を夜間に行っています。災害時用備蓄品は、隣接の同一法人の老人ホームで一括管理しており、事業所では、備蓄品リストで把握しています。	地域の行事や災害時訓練に参加できるように取り組んでいます。更に事業所の災害時に地域の人々の協力が得られるよう、引き続き働きかけが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助が必要と思われる時は、本人の気持ちを尊重してさりげないケアを心がけ、自己決定のしやすい言葉かけをすように努めている。	利用者を「人生の先輩」と考え、人格の尊重を大切にした支援に努めています。「認知症ケアマニュアル」「プライバシー保護マニュアル」などで勉強会を行っています。言葉かけや対応の仕方が適切かどうか、職員間で振り返りも行っていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活を支援する中で表情や反応を読み取り、ご自分の思いや考え方を表出することができない利用者様には、決定選択の伝えやすい場面づくりを心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペース、体調、お気持ちを尊重して、入浴やレクリエーション活動等ご本人の意思を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問理美容を勧めて利用頂いておりますが、馴染みの床屋さんに行かれる利用者様もいらっしゃる、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。男性利用者様の場合は、毎朝の髭剃りを促し身だしなみを心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、後片づけ等、出来ることは積極的に利用者様にして頂き、職員と利用者様が一緒にテーブルを囲み楽しく食事ができるように心掛けています。又、手作りおやつを囲み、談話をしながら食を楽しむ工夫も行っています。	一人ひとりの力に合わせて、盛り付けや配膳などを手伝ってもらっています。焼きそばパーティーや流しそうめんを楽しんだり、外食レクでレストランに出掛けることもあります。毎月のお菓子作りでは、ホットケーキやおはぎを、皆で作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の食事・水分は、摂取量を把握するため毎日記録に残して、水分が少なければ声を掛けて飲水を促している。食事は個々の嚥下状態を観察して、トロミや刻み等配慮している。又、医師の指示により水分を制限する方は、職員間で記録内容の確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きや義歯のお手入れができる方はご自分で磨いて頂き、最後に職員が確認して磨き足りない部分は、その方の状態に合わせて支援を行っている。義歯の人は夕食後消毒を行っている。又、定期的に訪問歯科医に診て貰い、医師の指示を仰いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心に配慮をし、身体機能に応じて手を差しのべている。排泄表で排泄パターンを把握し、ご本人の表情やサインを見逃さず声掛けやトイレ誘導など速やかな対応・支援をしている。	トイレでの排泄を基本に考え、一人ひとりの排泄のパターンを把握して状況に応じた支援を行っています。職員が声かけやトイレ誘導をする時は、自尊心に配慮し、さりげない働きかけを行っています。また羞恥心や不安を軽減することも大切に支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、排泄チェック表に記録し排便の確認をしている。又、便秘が続く場合は、往診医の指示により緩和剤の内服をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分のすぐれない時は、無理強いせずタイミングをみて声掛けしたり、翌日に入浴をして頂いたりして対応している。入浴時の羞恥心や入浴を拒む人への対応は、気持ち良く入浴できるように言葉掛けやご案内方法等を工夫して支援している。	ほとんどの利用者が週2回の入浴を楽しんでいます。入浴予定表を作成していますが、利用者の健康状態や希望を考慮して柔軟に対応しています。脱衣所にエアコンを設置し温度差に配慮しています。季節ごとに、菖蒲湯やゆず湯にするなどしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調、希望等を配慮しゆっくり休憩が取れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方、効能、副作用の説明内容をファイルに保管し、職員が内容を把握できるようにしている。利用者様の状態変化の際、看護職員や医師と連絡・連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1日の関わりの中で、掃除や食事の準備など出来る事を見つけ、楽しみに繋がるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様の体調、天気の良い時には、施設周辺の散歩、買い物等を行っている。又、外出行事では、初詣、お花見、ドライブ、足湯、外食等楽しめる活動支援に取り組んでいる。	境内に大きな木が茂った寺社に出掛けたり、事業所周辺の散歩をしています。近隣のスーパーマーケットへ出掛け、職員と買い物を楽しむこともあります。利用者の希望を取り入れ、職員が外出レクを企画し、初詣や花見、足湯、外食などに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様からお金を預かり、紛失防止のため事業所にて管理している。食料等の買い出しの際、近所のスーパーに買い物へ行き、利用者様にお会計をしてもらう時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様・ご家族様の要望や希望に応じて電話の取次ぎ、手紙やはがきを出せるように対応・支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、玄関口の壁等に利用者様・職員の共同作業により作成した作品・季節飾りを装飾し、季節を感じて貰えるように工夫している。又、建物内のトイレやお風呂場、倉庫等の掃除、整理・整頓、換気や室温にも配慮し、居心地のよい共用空間づくりに努めている。	建物内はバリアフリーになっており、必要個所に手すりやコーナーガードを設置しています。日中は、食堂兼リビングのスペースで過ごす利用者が多く、テレビやカラオケを楽しんでいます。毎月の制作活動で、貼り絵・七夕飾り・折り紙などを作り、飾りつけをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルのお席は気の合った利用者様同士で座っていただき、談話やテレビ鑑賞をして頂いている。又、一人になりたい時は、居室に案内し、居室で過ごす事も大事にして見守る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の馴染みのある家具や置物、写真などを飾り、心地よく過ごせるよう努めている。	居室には、介護用ベッド・クローゼット・エアコン・空気清浄機・壁掛時計が設置されています。利用者はタンスなどの使い慣れた家具を持ち込んでいます。また家族の写真や自作の絵画などを飾り、本人が居心地の良い部屋にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様が安全に移動できるよう家具の配置に注意している。居室の入り口は名前を表示し、それでも迷ってしまう場合は目印をつける等、自立した生活が送れるよう工夫している。		

事業所名	グループホームプレシヤス橋本
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に対する理解を深め、「愛と奉仕」の精神に基づき、入居者様及びご家族が安心して生活できる環境を職員一同周知して、実践に繋げる取り組みをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な散歩、買い物等に出掛け行き交う方々と挨拶を交わしたり話をしたり自治会活動に進んで参加し、地域の一員とて取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の様々な研修、会合に関わりながら随時認知症の相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回運営推進会議を開催して施設の現状報告を行い、利用者様、ご家族様、地域の方々の意見を伺いサービス向上に活かせるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政の認定調査員や生活保護受給者のケースワーカー等と連絡を密に取り、利用者様の暮らしぶりを伝えている。又、市町村担当者より行政主催の研修や講習会などの案内・連絡をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を全スタッフが理解し、身体拘束のないケアを心掛けている。又、定期的に勉強会を開催して身体拘束ゼロ対応に取り組んでいる。玄関の施錠は外部からの不審者を予防するため、防犯上止むを得ず行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者様の日々の状態を観察して入浴、排泄等の支援を行い、傷や痣の有無を確認して職員間で情報を共有し、虐待が見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。又、研修や勉強会に参加し、学んだ内容は施設内ミーティングで情報の共有化を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	寝たきり、重度認知症の高齢者は、自己の権利を行使できずに権利が侵害されている事もある為、そのような状況において権利行使できるよう側面的に支援代弁していけるよう職員一同話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約又は解約等の手続きの際は、利用者様やご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の訴えは最後まで傾聴して、親身に受け止め対応している。ご家族様には、手紙や訪問時及び運営推進会議で常にコミュニケーションを取り、何でも話せる雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員とのコミュニケーションは、常に意見交換や提案を聞くように心がけている。対応の必要がある意見には、職員会議で話し合いの場を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見、要望を取り入れて、働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員に対してケアの技術面や利用者様との関わり方について、指導を実施している。また施設内勉強会、外部研修にも参加する機会を設け、新たな気づきや知識・介護技術の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での合同納涼祭・バーベキュー等を通じ交流を図り、情報交換やサービスの質の向上に繋げている。又、市町村による管理者会議に参加して、勉強会や情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントや情報提供書を基に、入居前の生活環境を把握した上で細やかな観察を行い、不安、要望等に傾聴し、利用者様が安心できる声掛けや対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の不安や困っている事、要望等を伺い、電話連絡を密に取るなど気軽に話せるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様とご家族様の情報を基に、何を必要とされている支援なのか傾聴・確認をした上、職員と話し合う機会を持ち、全員が同じ対応をして行けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有している。その中で利用者様のできる事、できない事を見極め、昔ながらのやり方などを教わりながら利用者様と職員と一緒に食事や掃除等を行い、生活感が持てると共に支えあう関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、ご家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしや出来事の情報共有し、信頼関係を築きながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚や友人の面会の受け入れ、手紙のやり取りや電話の取り次ぎ等、関係が途切れないよう支援している。又、今まで使用していた家具等を持ち込んで貰い、安心できる環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の相性を見ながら座席をきめたり、穏やかに過ごせる環境作りを心掛けている。又、利用者様が部屋に引きこもらないように、職員が歌や体操・レクリエーション等楽しめる取り組みを工夫して声掛け、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院された場合はお見舞いに伺い、他施設に移られた場合には情報提供をして、これまでのご縁を大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中、しぐさや言動に耳を傾け、思いや考えの把握に努めている。生活のルールの中で実現可能なことは、できる限り利用者様の希望に添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前のアセスメントや面談記録などを参考に生活歴や経験等を把握している。馴染みの暮らし方を取り入れ、できる限り希望に添えるよう努めている。又、分からない事がある場合は家族から聞き取りをおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士で申し送りや連絡・往診ノート等を使い情報共有して、利用者様の心身の状態や睡眠状況、嚥下状態や歩行状態等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、職員、医療関係者と話し合い連携を図っている。また状況変化に伴い、アセスメントや往診情報を基に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様全員の介護記録表を作成している。介護記録の確認、連絡ノートの活用、朝礼、夕礼の際に職員間で情報を共有しながら、より良いケア・支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様やご家族様の状況・要望に応じ通院介助、買い物代行を行っている。又、往診・訪問看護等にも利用者様の訴えを受け入れて貰える環境である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問理美容やボランティア、利用者様に必要な地域資源を把握・活用して楽しみが持てる暮らしを提供している。又、二ヶ月に一度、運営推進会議を開催し地域包括支援センター職員と話し合いを重ねることで関係を強化している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の提携医療連携機関の往診、訪問看護を定期的実施している。又、ご本人や家族の希望があれば、入所前からのかかりつけ医の治療も受けられるように支援し、必要に応じ他院への紹介もおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、体調変化に気づいた段階で看護職員（訪問看護師）等に報告し指示を仰ぎ、外部受診や往診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行っている。入院中は現在の様子などを聞き、家族と共に回復状況の情報交換をし退院に向けた支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり安心して、納得のいく最期を迎えられるように随時、意思の確認をしながら取り組んでいる。又、職員は、必要な知識を身に着けるように勉強している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時慌てないように、救急講習会には積極的に参加している。行政関係や消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を実施している。施設内の勉強会でも対応・方法を話し合い、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器使用法などの訓練を定期的に行っている。又、運営推進会議において災害時の避難誘導や地域住民との連携について話し合い、協力体制が築いていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助が必要と思われる時は、本人の気持ちを尊重してさりげないケアを心がけ、自己決定のしやすい言葉かけをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活を支援する中で表情や反応を読み取り、ご自分の思いや考え方を表出することができない利用者様には、決定選択の伝えやすい場面づくりを心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペース、体調、お気持ちを尊重して、入浴やレクリエーション活動等ご本人の意思を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問理美容を勧めて利用頂いておりますが、馴染みの床屋さんに行かれる利用者様もいらっしゃる、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。男性利用者様の場合は、毎朝の髭剃りを促し身だしなみを心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、後片づけ等、出来ることは積極的に利用者様にして頂き、職員と利用者様が一緒のテーブルを囲み楽しく食事ができるよに心掛けしている。又、手作りおやつを囲み、談話をしながら食を楽しむ工夫も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の食事・水分は、摂取量を把握するため毎日記録に残して、水分が少なければ声を掛けて飲水を促している。食事は個々の嚥下状態を観察して、トロミや刻み等配慮している。又、医師の指示により水分を制限する方は、職員間で記録内容の確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きや義歯のお手入れができる方はご自分で磨いて頂き、最後に職員が確認して磨き足りない部分は、その方の状態に合わせて支援を行っている。義歯の人は夕食後消毒を行っている。又、定期的に訪問歯科医に診て貰い、医師の指示を仰いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心に配慮をし、身体機能に応じて手を差しのべている。排泄表で排泄パターンを把握し、ご本人の表情やサインを見逃さず声掛けやトイレ誘導など速やかな対応・支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、排泄チェック表に記録し排便の確認をしている。又、便秘が続く場合は、往診医の指示により緩和剤の内服をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分のすぐれない時は、無理強いやせずタイミングをみて声掛けしたり、翌日に入浴をして頂いたりして対応している。入浴時の羞恥心や入浴を拒む人への対応は、気持ち良く入浴できるような言葉掛けやご案内方法を工夫して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調、希望等を配慮しゆっくり休憩が取れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方、効能、副作用の説明内容をファイルに保管し、職員が内容を把握できるようにしている。利用者様の状態変化の際、看護職員や医師と連絡・連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1日の関わりの中で、掃除や食事の準備など出来る事を見つけ、楽しみに繋がるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様の体調、天気の良い時には、施設周辺の散歩、買い物等を行っている。又、外出行事では、初詣、お花見、ドライブ、足湯、外食等楽しめる活動支援に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様からお金を預かり、紛失防止のため事業所にて管理している。食料等の買い出しの際、近所のスーパーに買い物へ行き、利用者様にお会計をしてもらう時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様・ご家族様の要望や希望に応じて電話の取次ぎ、手紙やはがきを出せるように対応・支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、玄関口の壁等に利用者様・職員の共同作業により作成した作品・季節飾りを装飾し、季節を感じて貰えるように工夫している。又、建物内のトイレやお風呂場、倉庫等の掃除、整理・整頓、換気や室温にも配慮し、居心地のよい共用空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルのお席は気の合った利用者様同士で座っていただき、談話やテレビ鑑賞をして頂いている。又、一人になりたい時は、居室に案内し、居室で過ごす事も大事にして見守る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の馴染みのある家具や置物、写真などを飾り、心地よく過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様が安全に移動できるよう家具の配置に注意している。居室の入り口は名前を表示し、それでも迷ってしまう場合は目印をつける等、自立した生活が送れるよう工夫している。		